

せながしま せなが  
瀬長島 (瀬長グスク)



上空から見た瀬長島

那覇空港の南側の東シナ海に浮かぶ標高約33m、周囲が約1.5kmの小島が瀬長島です。

琉球王府が1713年に編集した『琉球国由来記』には「瀬長按司ハ王位の御婿ニテ…… (巻八・那覇由来記イベガマノ事)」、「往古ハ瀬長按司居住の跡アリ…… (巻十二・各処祭祀)」とあり、瀬長按司が居住していたグスクであると記述されています。

瀬長島は鶏を飼うとハブが鶏を襲いに必ず来たと言われるほどハブが多く、島では鶏が鳴かない島といわれ、別名「トゥイナカンシマ」ともいわれていました。その他、砂の上に島があるということから「アンジナ」ともいわれていました。

戦前は島全体を緑に包まれ、海亀も産卵したといわれるほど綺麗な砂浜が島の周辺に見られたといわれます。

また、子宝岩やグスクの石積みがありました。先の大戦や戦後、米軍基地として利用されたために大きく地形が変貌し、当時の面影は見られません。

以前は島に渡る道はなく本島との往来は干潮時に干潟を歩いて渡り、満潮時は舟を利用したといわれます。

